

■（131）国内初のネット選挙、「おばけ」が出ませんように

恥ずかしながら、小学4年生のころまで、おばけがいると信じていた。何より夜中のトイレが怖かった。布団で小便をもよおすと、毎回、3つ年下の妹を無理やり起こして連れて行った。姿の見えない相手への恐ろしさから、横を歩く妹の足音にさえおびえていた。

インターネットには、本当におばけが出るようだ。新聞の投書欄の投稿者に対し、匿名の電話や郵便による嫌がらせが相次いだ。調べてみると、投稿者の住所や電話番号がネット上にさらされていた。反発した誰かが、嫌がらせの「拡散」を狙って書き込んだらしい。いたずら電話や郵便物の発信・差出人は顔を見せない。受けた方は、誰なのか、次に何をしてくるのか、と不安を募らせる。卑劣なネット悪用例だ。

一方、軍が民選大統領を解任したエジプトは、約2年前、「アラブの春」の発端国だった。交流サイトを通じて連携をとった人々が、当時の政権を倒した出来事で、ネットの力が民主化を前に進めたはずだった。

社会を前にも後ろにも動かすネット。エジプトの「変」と同じ日に公示された参院選は、国内初のネット選挙となる。この歳になって、「おばけ」に遭遇しないことを祈る。(山)